

松嶋夜話 卷之下 30

〔原文〕佛世只命終

〔訓読〕佛の世には只だ命終る

〔原文〕陰有遺付記荊耳

〔訓読〕陰かに遺付記荊有るのみ

〔原文〕往古如雲門得法於陳尊宿也

〔訓読〕往古には雲門の法を陳尊宿に得るが如し

※陳尊宿：黄檗希運禪師の法嗣であり、雲門文偃禪師を開悟させたことで知られ陳尊宿は、唐代中期の人であるが生没年と生地は不詳、俗姓は陳氏、法名は道明あるいは道蹤。

〔原文〕近世往往急於求嗣

〔訓読〕近世は往往に嗣を求むるに急ぎて

〔原文〕效庸俗之所爲

〔訓読〕庸俗の所爲に效ふ

〔原文〕而勢利相傾名位相勝

〔訓読〕而して勢利相傾、名位相い勝つ

〔原文〕僉習之曰益乎

〔訓読〕僉な之に習う、益と曰ふや

〔原文〕故中峯痛判斷之

〔訓読〕故に中峯痛く之を判斷し、

〔原文〕舉月堂日中灌瓜之喻石室鑽腋插羽之譏

〔訓読〕月堂日中に瓜に灌ぐの喩、石室腋に鑽（うが）ちて、羽を插むの譏りを擧ぐ

※石室善玖 一294―389 鎌倉―南北朝時代の僧。…永仁2年生まれ。臨濟（りんざい）宗。文保2年元（1210）にわたり、古林清茂（くりんせいむ）の法をつぐ。帰国後、京都竜寺、鎌倉円覚寺、建長寺の住持をつとめ、永和元（1251）年武蔵岩槻の平林寺の開山（かいさん）となる。康応元（1259）年中、96歳。筑前出身。法名は「ぜんく」ともよむ。

〔原文〕只向山房夜話詳焉則明皎皎

〔訓読〕只山房夜話に向かいて、焉を詳らかにすれば、則ち明皎皎たり